



しとぎょうでんの 使徒行伝：サウロ、かごに 乗って まちを だっしゅつする

(使徒行伝 第9章 8-25節)

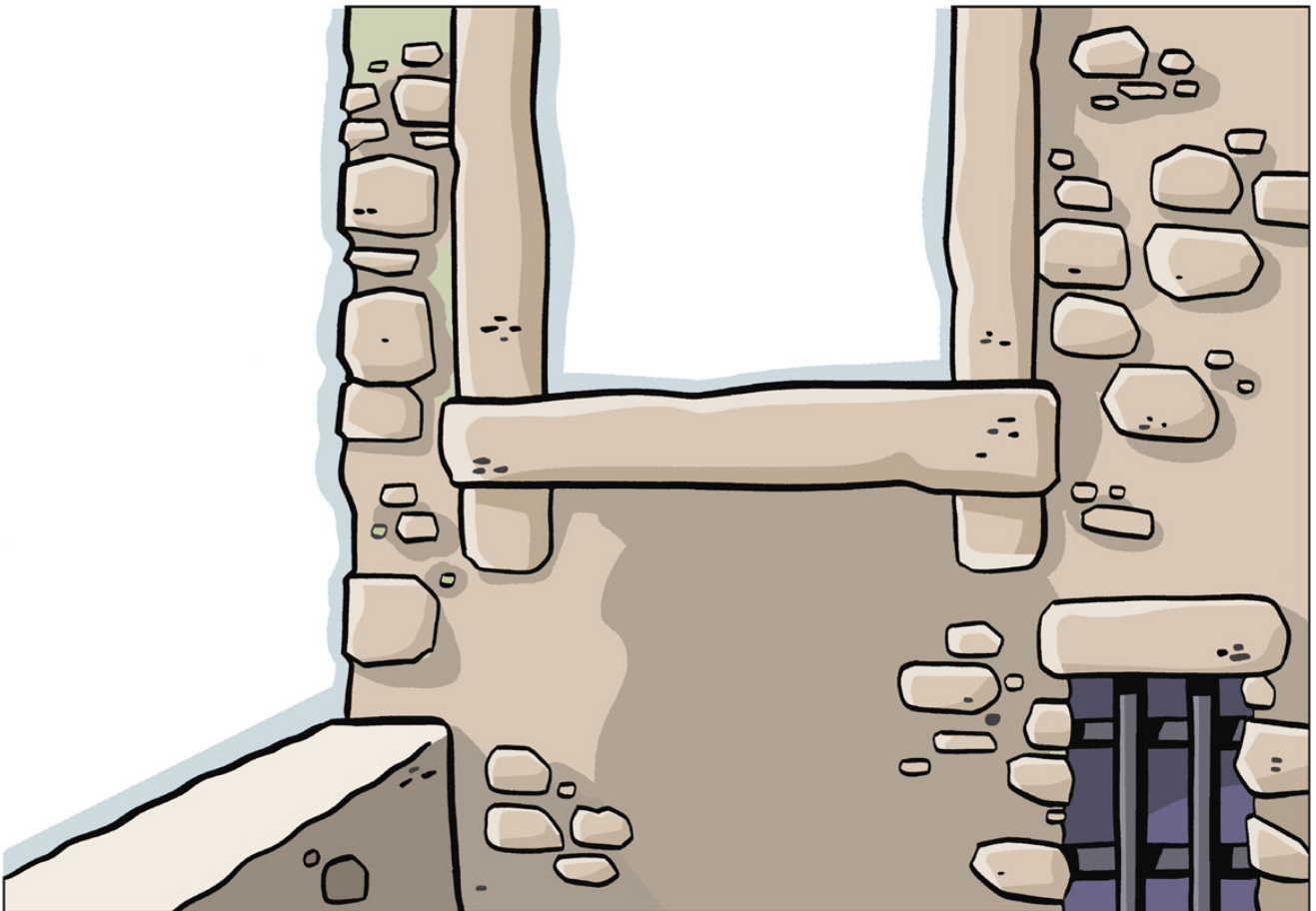


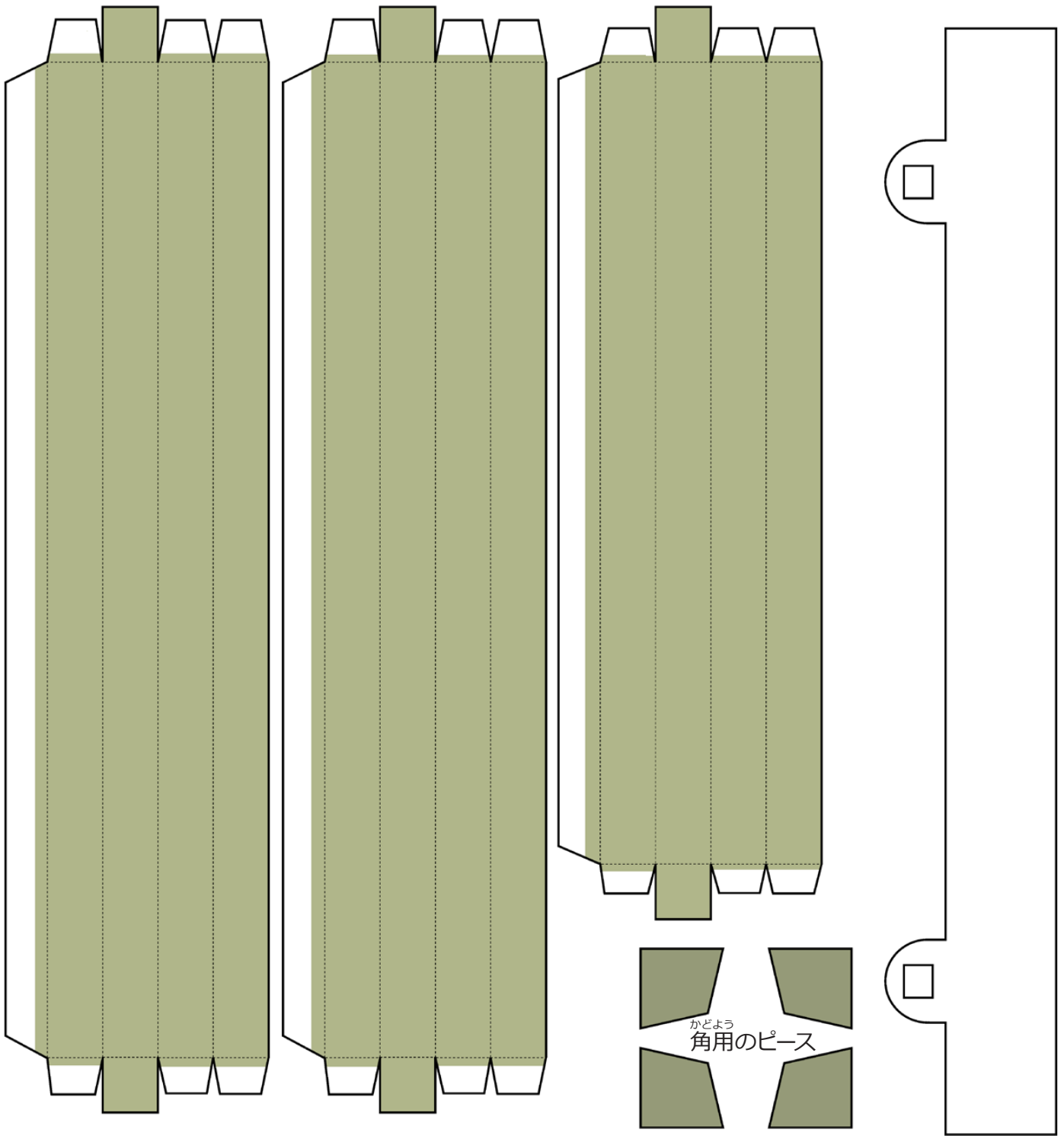
サウロ(後にパウロという名前になる)は、まぶしい光で目が見えなくなり(「使徒行伝：ダマスコへの道で」を参照)、共にいた人たちに手を引いてダマスコへ連れて行ってもらわなければなりません。ダマスコでは、神様がアナニヤという人をサウロの元に送り、サウロのいやしのために祈らせます。

アナニヤはサウロの上に手を置いて言いました。「兄弟サウロよ。主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされるために、わたしをここにおつかわしになりました。」するとたちどころに、サウロの目からうるこのようなものが落ちて、元通り見えるようになったのです。

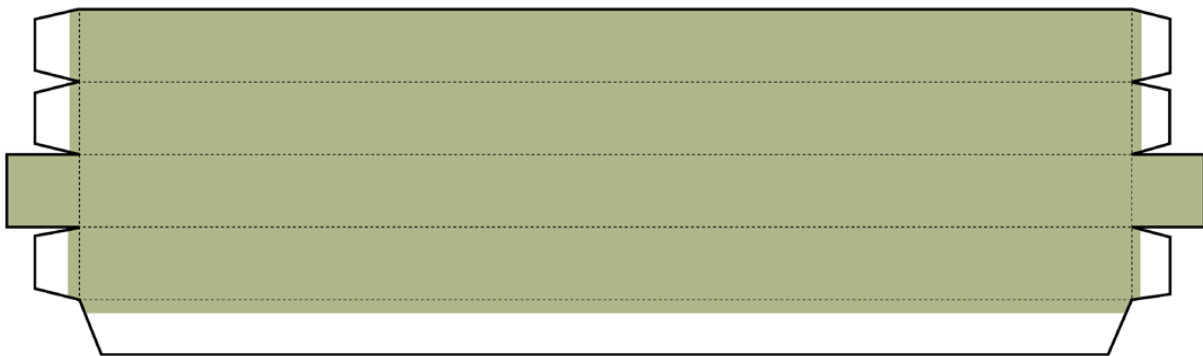
そこでサウロは洗礼を受け、ダマスコにいた弟子たちと共に数日間を過ごして、イエス様についてさらに多くを学びます。そしてサウロもまた、会堂で、イエス様が神様の子であることを、人々に教え始めたのでした。

サウロが会堂で人々に教えるようになってから、かなりの日数がたつと、以前サウロと共に働いていた人たちが、サウロを殺そうとねらうようになりました。そこで弟子たちはある夜、サウロをかごに乗せ、町の城壁づたいにつり下ろして、町の外へ逃がしたのでした。



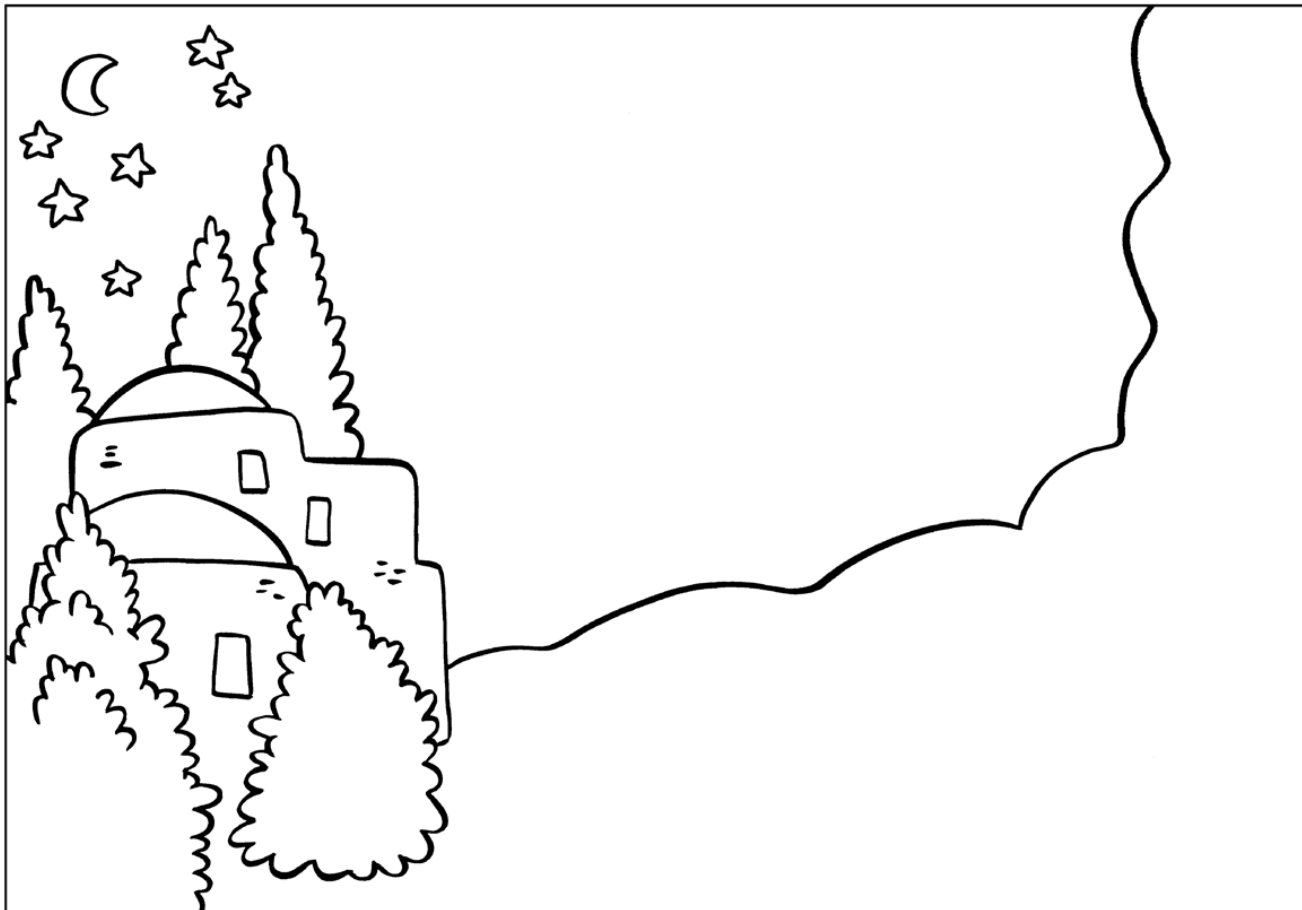


かどよう
角用のピース



フレーム用のピース

ひもをつけた後に
はっつけるピース
シャドーボックスの
つくかた
作り方は[こちら](#)



しとぎょうでん の まち だっしゅつ 使徒行伝：サウロ、かごに 乗って 町を 脱出する

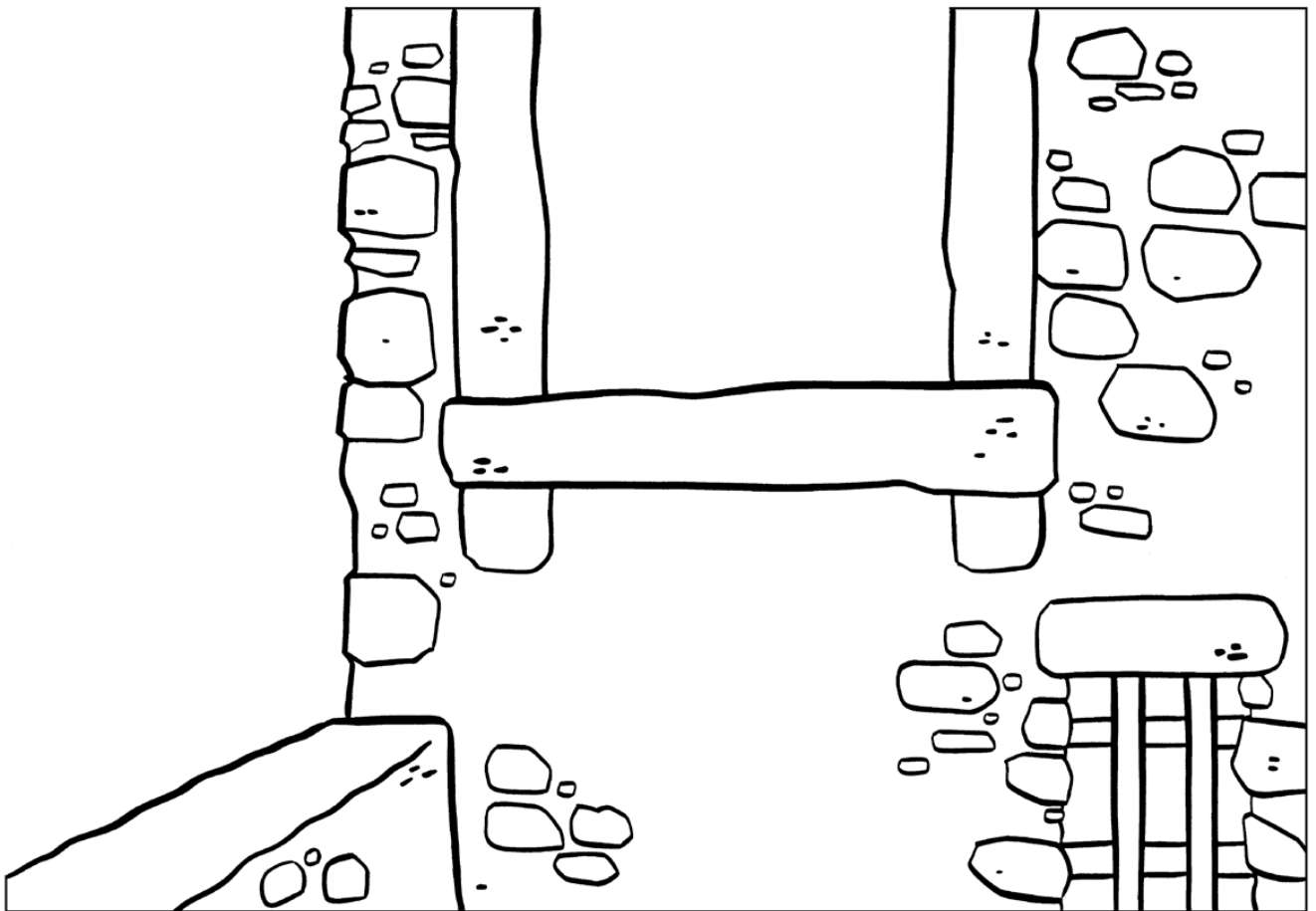
しとぎょうでん たいししょう せつ
(使徒行伝 第9章 8-25節)

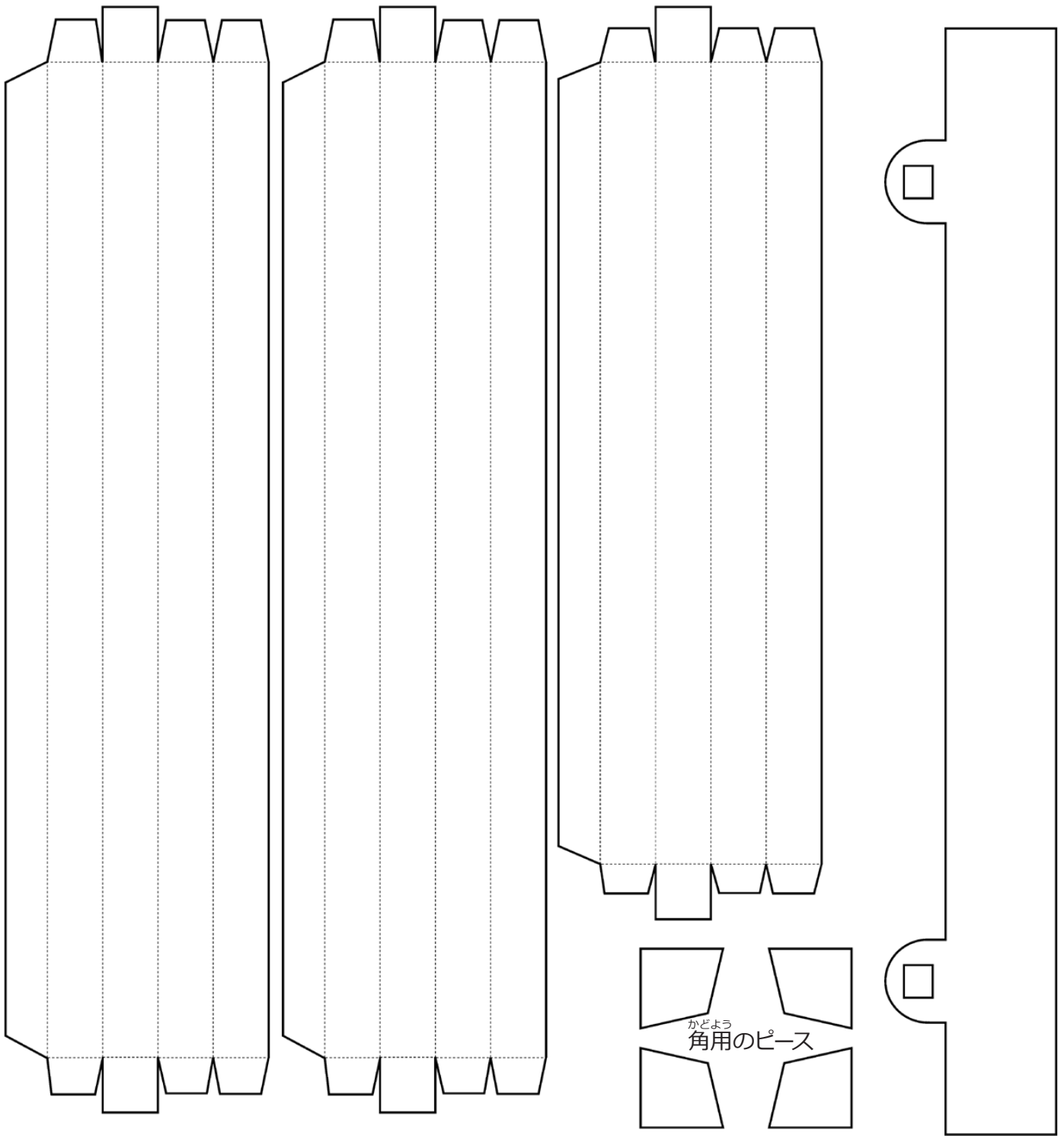
サウロ^{のち} (後にパウロという^{なまえ} 名前になる) は、まぶしい^{ひかり} 光で^め 目が^み 見えなくなり
 (「使徒行伝：ダマスコへの^{みち} 道で」を^{さんしょう} 参照)、共に^{とも} いた^{ひと} 人たちに^て 手を^ひ 引いて
 ダマスコへ^つ 連れて^い 行って^ら もらわなければ^{なり} ませんでした。ダマスコでは、^{かみさま} 神様が
 アナニヤという^{ひと} 人を^{もと} サウロの^{もと} 元に^{おく} 送り、サウロの^い いやしの^{ため} ために^{いの} 祈らせます。

アナニヤは^{うえ} サウロの^て 上に^お 手を^い 置いて^{きょうだい} 言いました。「兄弟サウロよ。主イエスは、
 あなたが^{ふたた} 再び^み 見える^{よう} ように^{なる} ため、そして^{せいれい} 聖霊に^み 満た^さ される^{ため} ために、わたしを
 ここに^お つかわし^に になりました。」すると^ち たちどころに、サウロの^め 目から
 うろこの^お ような^ち ものが^お 落ちて、^{もと} 元通り^み 見える^{よう} ように^な ったのです。

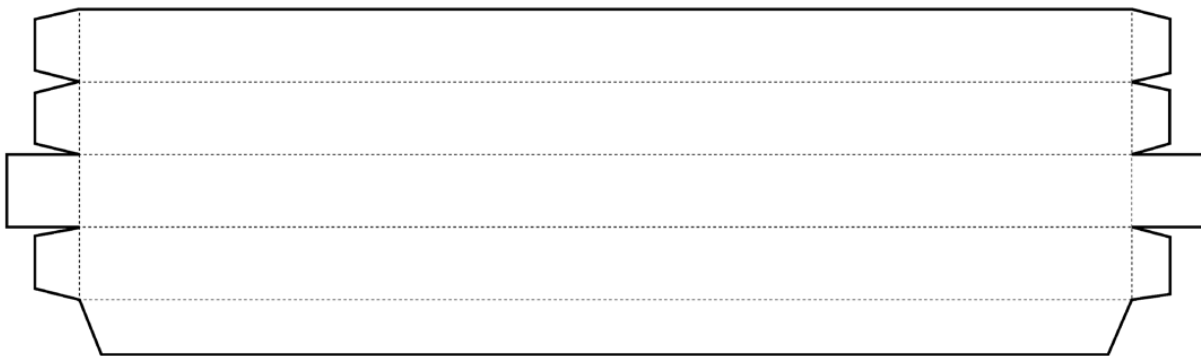
そこで^{せんれい} サウロは^う 洗礼を^う 受け、ダマスコに^で いた^し 弟子たちと^{とも} 共に^{すうじつかん} 数日間を
 過^す ぎして、イエス様^{さま} について^お さらに^ま 多くを^ま 学び^ま ます。そして^お サウロも^{また} また、
 会堂^{かいどう} で、イエス様^{さま} が^{かみさま} 神様の^こ 子である^{こと} を、^{ひとびと} 人々に^{おし} 教え^{はじめ} 始めた^た のでした。

サウロが^{かいどう} 会堂で^{ひとびと} 人々に^{おし} 教える^{よう} になってから、かなりの^{にっすう} 日数が^{たつ} と、
 以前^{いぜん} サウロと^{とも} 共に^{はたら} 働いていた^{ひと} 人たちが、サウロを^{ころ} 殺そうと^{ねら} うように
 なりました。そこで^で 弟子たちは^{ある} ある夜、サウロを^{よる} かごに^の 乗せ、^{まち} 町の^{じょうへき} 城壁^{づたい} づたいに
 つり^お 下ろして、^{まち} 町の^{そと} 外へ^に 逃^が したのでした。





かどよう
角用のピース



よう
フレーム用のピース

ひも^つを^{あと}つけた後に
は^つ貼り付けるピース
シャドーボックスの
つく^{かた}り方は[こちら](#)